

# 町史編さんだより

第24回 ～『じげの宝』シリーズvol.11～

## 『出雲街道の要所、 地域づくり活動も盛んに・舟場地区』

今回の「町史編さんだより」は、政治・行政・教育小委員会が、地域の特徴や活動、行事、祭り、昔話、自慢などを聞き取り、紹介する「じげの宝」をお送りします。

### 春は桜、 夏はホタルの名所

舟場の春は、日野川左岸の堤防を埋めつくすように、約1kmにわたって桜が咲き誇り、谷間に残雪の霊峰大山の姿が浮かびます。平成元年に地元有志でソメイヨシノなどの苗木100本以上を植樹。大切に手入れをしてきたおかげで、すっかり春の名所となりました。また河川の草刈りも行われ、初夏には数多くのホタルが飛び交います。

舟場地区は、根雨、三谷、貝原にかけての日野川対岸に沿って、山裾に家屋や田畑が広がるのどかな集落です。戸数は、昭和35年の国勢調査では50世帯でした。その後、主に日野川下流側に、鳥取県の職員寮や住宅が建てられ、町



▲ねう祭りに銭太鼓で参加

林業総合センターや森林組合も整備されるなど、にぎわいを増しました。平成2年には100世帯と倍になりましたが、ピークをへて、平成27年には71世帯となっています。かつては、植林が盛んで、スギの美林が多く、また和牛飼育でも知られています。

### 間地トンネルの開通で 米子までの距離が短縮

集落からは、北側の間地峠を越えて伯耆町を経由し南部町に通じる、主要地方道「西伯根雨線」が通過しています。平成5年に間地トンネルが開通し、車が通れるようになつてから、根雨から二部や法勝寺方面、米子までの距離が短縮され大変便利になりました。



▲産業文化祭ではもちつきが恒例に

雲街道で、人馬の往来はもちろぬ、上方との物資の交流の重要なルートでした。舟場には、日野川を渡る舟の渡し場もあつたといひます。また、安来から大阪へウナギを運んだ道としても知られ、現在も集落内には、途中、ウナギを休ませたという池が残っています。平成17年・18年には、間地峠にあつた茶屋を復活しようとして、舟場と間地（伯耆町）集落の住民が協力して、イベントも行われました。

### 運動会や文化祭も にぎやかに

公民館活動も盛んです。運動会は、昭和53年から続いており、多くの住民が参加して毎年盛り上がりがあります。また、産業文化祭も昭和59年から毎年開催しています。陶芸や書道、生け花などの展示や野菜の即売、もちつきなども行われ、子どもからお年寄りまで参加するなど親しまれています。これらの活動は、ほかの地区から見学者があるほどの盛況ぶり、交流も生まれています。

また、昭和54年に、住み良い地域づくりをめざす若者グループ「昭和二桁会」（現「舟場昭和会」）が結成され、スポーツや文化活動を通して交流を深めています。なかでも、衣裳を揃えての「銭太鼓」は、ねう

祭りをはじめ、高齢者の福祉施設、町内外のイベントで披露するなど、ひっぱりだこです。

平成10年には、舟場地区コミュニティセンターが整備され、活動拠点がさらに充実。高齢化社会を迎え、自分たちの手で長寿をお祝いしようとして、平成14年から敬老会も始めました。また最近では、百歳体操やばかばか教室など健康づくり、介護予防にも取り組んでいます。

舟場自治会では、平成19年から警察庁制定の「地域安全ステーション」モデル事業実施地区として指定を受け、地域の防犯や登下校の子どもの安全を守る防犯パトロールを開始。さらに平成29年には「舟場自主防災会」を立ち上げ、除雪機を購入して高齢者世帯の雪かきや、災害に備えて「支え合いマップづくり」など、積極的に自助、共助の取り組みを行っています。

「私たちは、こうした活動を通じて地域に育てられてきた。これからも元気な限り、活動を続けていきたい」と地域づくりの思いが伝えられる一方、高齢の参加者からは「舟場に住んで良かった」、「安心して暮らせる」との声も聞かれました。

（松田暢子・松本利秋 政治・行政・教育小委員会）



【日野町図書館 おすすめの1冊コーナー】

# 読んでみたらんがな～

マップス

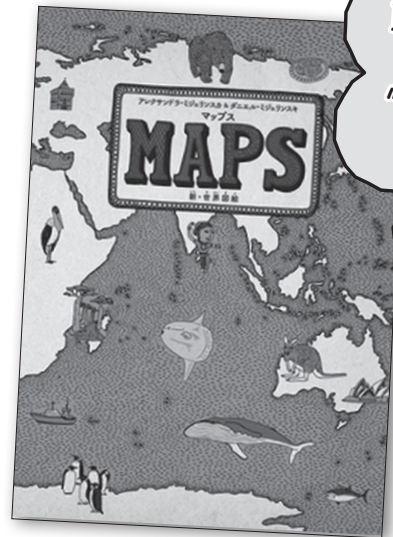
## 『MAPS 新・世界地図』

アレクサンドラ・ミジェリンスカ、  
ダニエル・ミジェリンスカ 作・絵 / 徳間書店

この本は、ポーランドの絵本作家夫妻が、3年かけてイラストを描いた大型の世界地図絵本です。世界42カ国が大陸ごとに分けられ、見開き1ページにひとつの国が紹介されています。

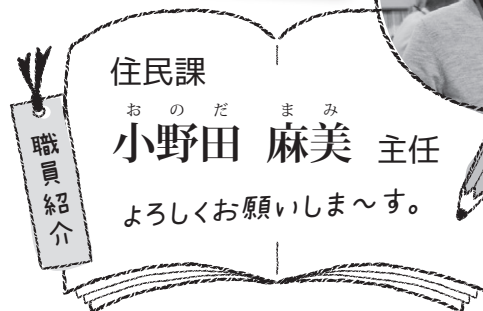
その国の食べ物、動植物、歴史、民族、地理、偉人などが可愛いイラストを通じて一目瞭然。

この本のお勧めポイントは、日本でいう、“太郎くん”、“花子さん”というような各国の代表的な男女の名前です。いろいろな視点から世界を比べたり調べたり。小さい子どもから大人まで、家族で楽しむことのできる絵本です。ぜひ、一度見てみてくださいね。



職員が勝手に  
ススめる1冊♪  
“今読みたい本”が  
見つかるかも!?

この本を  
紹介してくれたのは...



## 伯耆国「大山開山 1300年祭」 いよいよ「大山の夏山開き」!

6月2日(土)と3日(日)、大山では夏山開き祭が行われます。

2日の前夜祭では、大神山神社奥宮での神事後、博労座駐車場までの参道を、御神火のたいまつを持った人々が練り歩く「たいまつ行列」が行われ、幻想的な炎の河が見る人を魅了します。

3日は、山頂で神事が執り行われ、多くの参加者とともに登山者の安全を祈願します。

このほか、博労座駐車場では、2日間とも特設ステージでのイベントや、大山の恵みを集めた食のブース出店が行われます。

夏山開き祭が行われると、大山は本格的な夏山シーズンに突入します。今年、大山周辺では、11月ごろまでを中心に「大山開山1300年祭」に関連したさまざまなイベントが行われます。ぜひお出かけください。



神秘的な炎に照らされる「たいまつ行列」

### <関連イベントの一部を紹介します>

**地BeerFest 伯耆国「大山」** 6月9日(土)・10日(日)、開催場所：榎水高原(伯耆町)  
開山1300年を記念して醸造された限定ビールの販売のほか、全国各地の地ビールが集まるイベント。地元食材を活用した食の提供やステージイベントも行われる。

**「地上の星」金田川ホテル鑑賞** 6月2日(土)～10日(日) 予定、開催場所：金田川(南部町)  
「地上の星」・ホテルによる幻想的な光の乱舞を鑑賞できます。

**鳥取県立博物館企画展「大いなる神仏の山 大山 -その歴史と民俗-」** 6月2日(土)～7月1日(日)  
大山の文化を代表する大山寺と大神山神社所蔵の資料や、県内外の重要な歴史資料が一堂に展示され、大山の隆盛を支えた地域や人々など、大山の歴史や民俗を紹介。

問合せ：伯耆国「大山開山1300年祭」実行委員会【鳥取県西部総合事務所 地域振興局 西部観光商工課 大山振興室内】

電話：0859-31-9371 公式ホームページ：<http://www.daisen1300.org/>